

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	田中大樹	学校名	住道南小学校
実施学年	小学6年	教科	算数
単元名	比		

《学びを深めたいポイント》

本実践では、算数科という単元を通して自立した学習者となることを目指している。ここでいう自立した学習者とは

“既存の知識を使って新たな課題に自ら向かう姿”

“一人だけで課題を解決したつもりにならず協働的に学び新たな課題に向かう姿”

“正解だけにとらわれず最適解を見つけるために議論する姿”

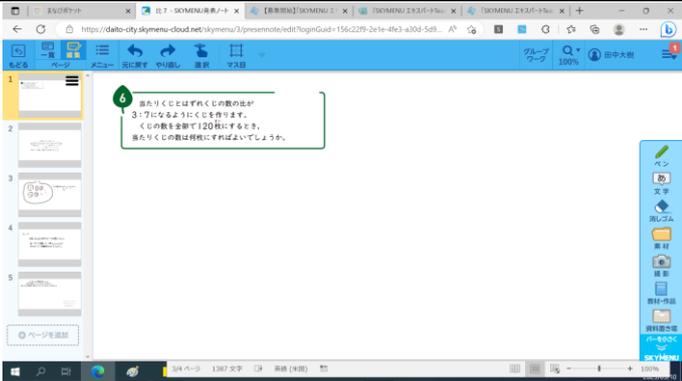
この3つの姿が見られる学習者のことをさすものである。協働的に学ぶためにはまず自分の力で未知なる課題に向かっていかなければいけない。まずは自分一人で未知なる課題に迎える環境づくりとして、明日授業の中で取り組む課題を宿題として配布する。しかし、それだけでは課題に向かうには不十分なので、ヒントとして教師の動画や、教科書のヒントを与える。ここで“既存の知識を使って新たな課題に向かう姿”を育めると考えている。次にいざ授業が始まると自分の考えが正しいのか？さらに分かりやすい考え方はないのか？について班で話し合う時間が始まる。ここで“一人だけで課題を解決したつもりにならず協働的に学び新たな課題に向かう姿”が育めると考えている。さらに話し合う視点を示すことで答えを導き出すことについて話すのではないと意識させる。ここで“正解だけにとらわれず最適解を見つけるために議論する姿”が育めると考えている。このスタイルで学習することで自立した学習者となれるのではないかと考えている。

《SKYMENU 活用のポイント》

まず発表ノートを使って宿題として翌日授業で考える課題を配布した。提出箱は学習者同士が閲覧できるようにすることで、苦手な児童も友だちの考えをみて自分なりに解決した状態で授業に臨むことができた。

教師もクラウド上で宿題の提出時間や内容を事前に確認できるので朝子どもが登校した時に、昨日の宿題の頑張りを褒めたり、進んでいない児童に声をかけることができるので、全員が同じスタートラインで授業を始めることができた。またふりかえりも学習者同士で閲覧できるので自分の考えがだれの助けになったのかが可視化され、自己肯定感の向上にもつながった。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
<p>導入</p>	<p>① 本時の課題をつかむ。</p> <p>「当たりくじと、はずれくじの比を3:7とします。くじを全部で120枚作ったときは当たりくじは何枚になるか、分かりやすい方法で説明しましょう。」</p> <p>・教師が課題を板書したものを確認し話し合い活動に進む。</p>		<p>○事前に宿題として課題を提出しておく。自分で学びを選択できるように、ヒントをいくつかノートにつけておく。</p>
<p>展開</p>	<p>② 4人班で昨日の宿題で出された課題について発表し合う。</p> <p>③ それぞれの考えについて違う部分に注目してどの方法がなぜ分かりやすいかについて話し合う。</p> <p>④ 班の意見を決定し、発表する人を決める。</p> <p>⑤ 全体交流の場で各班から最適な考えを発表する</p>		<p>○スライドショー形式で一覧で見ることが違いが分かりやすい。</p> <p>○班での発表でもマーキング機能を使って発表することで後で全体発表するための練習ができる。</p> <p>○マーキング機能を使うことでそれぞれのノートの上にメモできる。</p>

<p>まとめ</p>	<p>⑥ ふりかえりを書く。 ⑦ 練習問題を自分で選択して解く</p>		<p>○あとで子どもたち同士でふりかえりも確認できるので、だれの助けになったかが確認できる。</p>

《実践を振り返って》

教師にとってのメリットは、事前にだれがどのような考えを持っているかゆっくり確認できる点にある。事前に確認できるので授業の流れの中で子どもたちが、考えの良さに気づけなかったときに「〇〇さんと●●さんのノートによさってなんだろう？」と気づかせる問いを投げられる。また自分たちで学びあっていくことで円滑な集団作りを行うことができる。

子どもにとってのメリットは、1時間の中で発言できる機会が多い、自分にとって分かりやすい考えに触れることができる、という点である。算数科においては、図が分かりやすい子どももいれば、数字の方が分かりやすい子どももいる。それらの子どもに対して個別に選択できる点がメリットとして大きいと考えられる。

この取り組みの課題は人数バランスだった。班の人数は減らしたいが、全体交流のノートは多くしたくないという点でどうしても折り合いがつかなかった。結果一班の人数を優先し全体交流では9枚ものノートを発表しなくてはいけない所が課題だった。しかし取り組みを続けていけば、班の人数を増やしても交流が上手いくと期待できるので徐々に一班の人数を増やしていこうと考えている。